

みんなで育てる『復興のタネ』

「復興」へ前進する現場で
地域づくりに奮闘する
「田村市復興応援隊」――。
その情熱に満ちた活動を紹介します。

活動報告

田村市復興応援隊

復興支援員制度

復興支援員制度は、平成16年に発生した新潟県中越地震での被災地支援の手法をモデルに、総務省が設けた制度です。「田村市復興応援隊（以下「応援隊」）」は、平成25年7月に田村市が設置しました。活動目的は、被災者の見守りやケア、地域おこし活動支援など「復興に伴う地域協力活動」により、コミュニティの再構築を図ることです。

応援隊の活動

福島県内の復興支援員は現在約150人で、避難者の生きがいづくりや地域再生ボランティアの受け入れ、新たな観光や産業の掘り起し支援などに取り組んでいます。応援隊員は、県内外から集まった12人です。彼らは、地域住民による主体的な地域づくり活動をサポートすること、復興・地域活性化を目指して活動しています。主に、原発事故の影響



▲苗植え終了後、応援隊で集合写真

で避難を余儀なくされた都路町の復興支援をしています。平成26年4月には避難指示が解除され、都路町の小学校なども現地で再開されました。それを受けて応援隊は、帰還に係る高齢者の生活支援や、地域住民の新たな取り組み「復興のタネ」への支援に取り組んでいます。また、応援隊は地域を超

えたつながりづくりのために、魅力の発掘やグリーンツーリズム（グリーンSUGOS）を進めています。市内にはさまざまな地域活動を行っている方がたくさんいますので、その方々との情報を交換し、交流を図ることも重要です。お互いの地域の共通課題を解決する糸口が見つかったり、新たな活動が生まれたりするからです。



▲交流スペースづくり（よりあい処 華）



▲都路町内ゴミ拾い&交流会



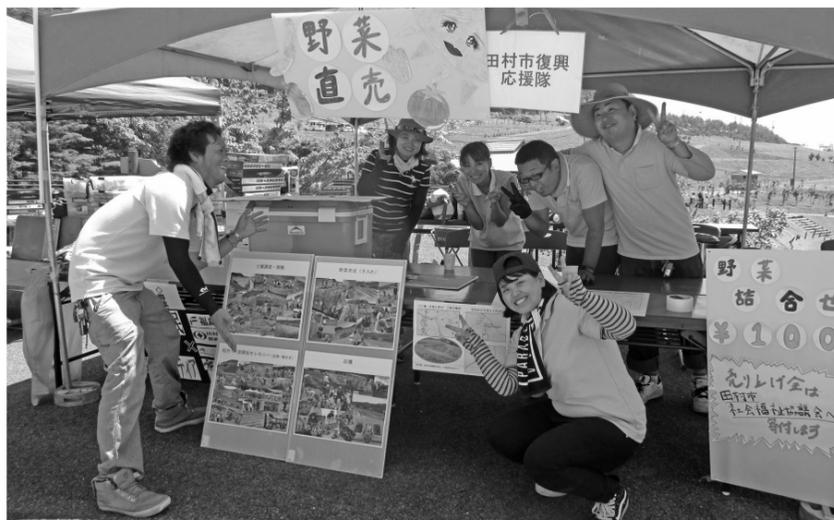
▲都路ふるさと塾の苗植え



▲大学生「さとあるき」



▲「グリーンSUGOS!」モニターツアー（ときめき山学校）



▲都路灯まつりに野菜直売を出店